日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited

No.2012-090
2012年8月15日
http://www.jri.co.jp

盛り上がるロシア建設投資

～ 進む資源依存からの脱却 ～

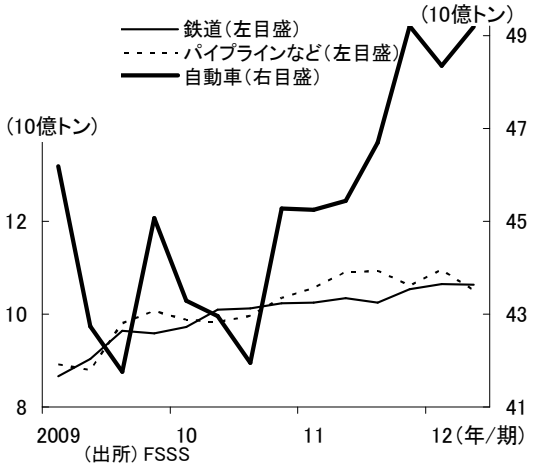
（１）従来、ロシア経済の特色はＥＵ各国向け石油・天然ガス輸出への依存。欧州経済の低迷は本来、同国経済を直撃。しかし、本年4～6月期も実質4%の底堅い成長を持続した模様。急成長を続けるカザフスタンをはじめ周辺各国への輸出増も寄与しているものの、成長の主力エンジンは内需。貨物輸送量をみると、天然ガスを輸送するパイプライン、石炭や鉄鉱石を運ぶ鉄道では頭打ち、あるいは一部で翳りが拡がる展開（図表１）。それに対して、トラックをはじめとする自動車の貨物輸送量は昨年半ば以降急増。

（２）所得・雇用環境の改善に伴う消費拡大に加え、投資の盛り上がりが牽引。建設投資をみると、11年入り後、まず住宅とサービス業で増加。本年に入り、住宅とサービス業が減勢に向かうなか、商業と鉱工業が立ち上がり。建設投資全体では、月毎の変動はあるものの、11年入り後の力強い増勢が持続。

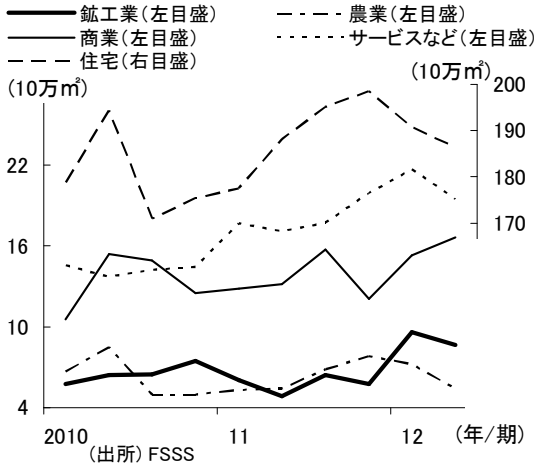
（３）投資の盛り上がりは国内企業に加えて、外資投資の積極化（図表３）。内外直接投資をみると、10年に入り国内資本の海外流出が拡大に向かったものの、昨年半ば以降、国内回帰の動きへ転換。一方、外資は10年末以降、高水準の資本流入が継続。さらに10年央から流出傾向が強まっていた証券投資が本年に入ると一転して流入へ。インフラや工業団地の整備など、同国政府の外資誘致に向けた取り組みが奏功。

（４）本年春には労働市場に異変。10年春以降雇用者数が一貫して増加するなか、本年5～6月と2ヵ月連続して失業率が上昇（図表４）。就業を諦め非労働力人口とされてきた人々が労働市場へ参入。帰国者増も上乗せされ労働力人口に増勢転換の兆し。内需に牽引され同国は4%成長持続の公算大。

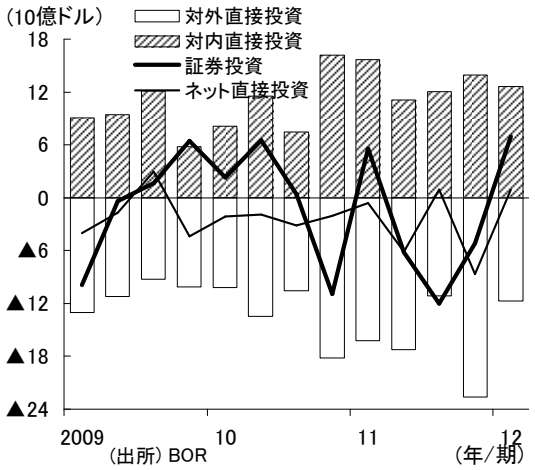
（図表1）ロシアの貨物輸送量（季調済）



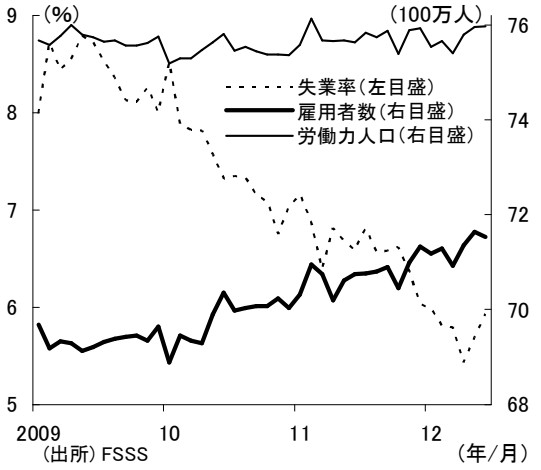
（図表2）分野別建設完工床面積（季調済）



（図表3）対内対外直接投資と証券投資



（図表4）失業率と雇用者数、労働力人口（季調済）



《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-6833-6373）